



『外資系の仕事術』

岩崎哲夫著/B6判・192頁/

定価(本体1,200円+税)/PHP研究所

世界最大の半導体製造装置メーカー、アプライドマテリアルズ社の上席副社長などを務めた著者が、外資系企業での仕事の取り組み方、成功法などを、自らの実体験を踏まえて書き上げた貴重な教本。

表紙に謳われた「世界で活躍する人物になれ」といったキャッチフレーズを見ると、著者の単なる成功談かと思間違いが、中身はむしろ半導体製造装置ビジネスに身を投じた著者のゼロからの出発、悪戦苦闘ぶりが率直に語られていて、読者の共感と呼ぶ。英語に弱く、技術に疎かった自らの弱点を刻一刻と克服していくプロセスには学ぶべき点が多い。

著者はよく若い人に向けて、「村を出よ！ 地上にだけ這い回るな！ 水に潜れ！ 空を飛べ」と口にするが、それというのもビジネスの国際化が進むと、多様性を受け止め、それを積極的に生かす機会が増えるからだ。著者は、25年以上も外国人に接して今な

お新たな驚きに直面すると打ち明け、「だからこそ、好奇心を刺激されて仕事が面白くなる」と述べている。

「コミュニケーションのパイプの中をピカピカに磨く」という章では、外資系企業では殊のほかコミュニケーションが重要な役割を果たすことを説いている。日本人はともすれば情緒や感情に流されがちだが、欧米の企業では「言葉の前に論理あり」で、論理的に考えて優先順位をつけて物事に取り組むことが肝要、と指摘する。

現在、国際経営者協会(IMA)代表理事の任にある著者ならではの考えが横溢しており、グローバル時代の仕事感覚を磨く格好の書になっている。(志村幸雄)